



久光農園／寄植工房 壽
ひさこ
久光壽子さん
(55歳)



Vol.3

日々のおごり。

地域おこし協力隊が日々であう
おごりの魅力的なひと、コト。
毎月ひとつ、紹介します。

今回の担当は山田です。



「ふぞろいな命に新しい息吹を」

公園や通りを彩る美しい木々。久光農園では、公共用の木を種から育て、販売しています。夫とその両親とともに家業を営み33年になる壽子さんには、今、信念をもって取り組んでいることがあります。それは和の寄せ植えです。

木は物差しで測ったように、同じようには育ちません。農園にも、枝が曲がったり、大きくならない木もあります。しかし壽子さんは、「どの子も一生懸命に生きている」と、そつと手に取り、小さな器に寄せ植えします。すると、新しい世界の中で、木々は生き生きと呼吸を始め、小さな苔玉に根付いた松が、松ぼっくりをつけることも。

寄せ植えは、針金や糸で形を整えることはせず、なるべく自然のままを生かして、時間をかけ、ていねいに整えています。子育てで子どもたちと真剣に向き合ってきたように、木々と向き合う壽子さん。「子どもたちが教えてくれたたぐさんのことを、今では木々たちが教えてくれる」。寄せ植えを通して、植物の生命力を表現しています。寄せ植えを始めて得たものは

もうひとつあるそうです。それは仲間との出会い。市内で創作活動をする仲間とともに、毎年「星のであい展」を開催。会場の一つ、久光農園では、植物の小さな命に触れる寄せ植えのワークショップや、野菜販売なども行うそうです。「ご近所の農家さんたちも野菜の販売を通して地域の関わりを楽しみにしてくれています」。15回目となるイベントの前に、壽子さんは今、家族や仲間たちとわいわい準備を進めています。

◀種から芽吹いた松の赤ちゃん



第15回「星のであい展」

日時 10月26日(金)

～28日(日)

午前10時～午後4時

会場

翔工房、布美、吉松庵、久光農園

※詳しくは、フェイスブックをご覧ください

